【みなさんの子どもたちは安全ですか？】

聖書本文:第二歴代誌32章33節 – 33章9節/ 暗唱聖句:第一歴代誌28章9節

説教:鄭南哲牧師
（Rev.Jung nam-chul）

歴史上一番不幸だった事件の一つはヒトラーが六百万人のユダヤ人を虐殺したことだと言えます。なぜこのような悲劇の歴史をヒトラーが作ったのでしょうか。いろんな理由を捜す事が出来ると思いますが、家庭的な面において有力な一つは、ヒトラーの父親はあっちこっち歩き回りながら物を売っていた仕事をしていました。そのせいで家を留守にしている時が多く在りました。父の留守を守っていたヒトラーの母親は寂しさを満たすためにお金のある有力なユダヤ人と不倫をしてしまいました。これを見ていたヒトラーは涙ながら母を止めますが、母はその生活を見捨てる事ができませんでした。そういうわけで、ヒトラーはその依頼ユダヤ人たちが大嫌いになったらしいです。彼らをいつかみんな殺したくなりました。このような背景で育てられたヒトラーが権力を握った時、自分の母と不倫の関係となったユダヤ人を憎んで結局は六百万人も越えるユダヤ人たちを殺す事を企てたのです。これは子どもに映される親の姿がどれほど大切で影響を及ぼすのかをよく教えてくれます。

ヒゼキヤ王はダビデとソロモン王以来イスラエルの歴史においてめずらしくとってもすばらしい信仰の王でした。いかし、彼の息子のマナセはイスラエルの歴史においてもめずらしいほどとっても悪い王でした。神様は我々の幸福のために家庭を定めてくださいましたが、いったいなぜヒゼキヤ王のような信仰の家庭で育った子どもがどうしてこんなに堕落してしまったのでしょうか？すると、みなさんの子どもたちは安全でしょうか？今日の本文を通して我々の家庭にくださる神様からの御言葉を聞きたいと思います。

１． 尊敬をされていた王ヒゼキヤ

ヒゼキヤ王はユダの王アハズの息子として２５才に王となって２９年間(BC715-687)イスラエルの南ユダを治めた第13代目の王です。彼は王となってすぐ宗教改革を起こし、宮を修理し、すべての高きところと偶像を壊し、占いと人をいけにえでささげる風習を禁止させました。それだけではなく伝統的に長らく拝んで来た物全部を捨てて焼き尽くしました。

たとえば、旧約聖書の中民数記21:4-9によると出エジプトしたイスラエルの民が一日も早くカナンに行きたがりましたが、神様は近道を導いてくださらず、エドムの地を回って行く道に案内してくださった事にイスラエルの民は不信仰で不平を言いました。それによって神様は怒って火の蛇で多くの人々が噛まれなくなりました。するとイスラエルの民は悔い改めながらモーセに“われわれが神様とあなたがたにつぶやいて罪を犯したので、神様に祈ってこの火の蛇たちを我々から離れさせてください”と懇願しました。それでモーセが神様に祈り、神様はモーセに**“燃える蛇を作ってそれを旗ざおの上につけよ。すべてかまれた者はそれを仰ぎみれば生きる。（民数記２１：９）”**と言われました。モーセは青銅の蛇を作ってそれを旗ざおの上につけ、蛇にかまれた者がそれを仰ぎ見たら、噛まれて死んで行く人たちがみな癒され、生きる事ができました。問題はそこからです。それ以来イスラエルの民はこの青銅で蛇の形を作って拝む対象にさせてしまいます。ヒゼキヤ王はその青銅の蛇をすべて取り除き、主の宮では神のみを礼拝するように定め、悔い改める運動を全国民的に起こしました。

ところが、そんな素晴らしい信仰を持っていたヒゼキヤ王は病にかかって死にそうになりましたが、神様に切に祈って１５年も命を延ばしていただきました。ヒゼキヤ王がユダを治める時、国が神様に祝福され、民はヒゼキヤ王を尊敬しました。**第二歴代誌３２：３３に“こうしてヒゼキヤは彼の先祖たちとともに眠り、人々は彼をダビデの墓地の上り坂（のぼりざか）に葬った。ユダのすべての人々とエルサレムの住民とは、彼が死んだ時、彼に栄光を与えた。”**
ここで人々がヒゼキヤ王を**“上り坂”**に葬ったというのは特別に尊敬したと言う意味です。なぜならカナンは低い平地のところは暑すぎて生きる事ができず、上り坂がとっても良い地形（ちけい）だったのです。ですからヒゼキヤ王を上り坂に葬ったという事はだれだけ尊敬したのかをよく表してくれる表現です。一言で言うと、ヒゼキヤ王はイスラエルの歴史においても見当たらないほどすばらしい王でした。

2. 放蕩息子マナセ王

ヒゼキヤ王が亡くなると、彼の息子のマナセが 12才の時、ユダの王になりました。尊敬されたヒゼキヤ王の息子はどうだったでしょうか？とっても残念ながら、マナセが王になってからは彼の父ヒゼキヤ王が行っていたこととは正反対に悪を行うばかりでした。宮に入る人々が神様にではなく偶像を拝むように命じ、父が取り壊した高きところを築き直し、天の万象（ばんしょう）を拝みながら、とにかくイスラエルの南ユダ王国の歴史において一番悪い王として記録されました。
マナセの行ったことについての評価が本文の９節に書かれています。**“しかし、マナセはユダとエルサレムの住民を迷わせて、主がイスラエル人の前で根絶やしにされた異邦人よりも、さらに悪い事を行わせた。”**
つまり、マナセ王は異邦人たちより偶像崇拝に熱心でした。それだけではなく、マナセはエルサレムで罪のない神の敬虔な人々をもたくさん殺しました(第二列王記21:16)。そして、ユダヤ人の伝承によるとイザヤ預言者もマナセ時代にノコギリで殺されたそうです。結局マナセのせいでユダの王国も滅びに陥ります。

神様の御怒りで、バベロンの侵略によって多くの民が捕虜として連れられ、悲惨な奴隷生活をすることになります。
愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！聖書のこの事実を通して当然わいてくる疑問がありませんか。あんなにすばらしい信仰の父のもとで、育てられた息子がこんなに堕落し放蕩する事ができるのか？
ヒゼキヤ王の家庭は我々にとっても大切な教訓を与えてくれます。

① 信仰の良い親だとはいえ必ず信仰の良い子どもが生まれる保障はありません。社会的な出世も決して神の祝福だとも言えません。

② 信仰の家庭の子が、罪を犯すとより神の栄光を隠すだけではなく、多くの人々が苦しまれるという事実です。

３．　いったいなぜすばらしい信仰の親からマナセのような息子が出来たのでしょうか？

聖書でヒゼキヤ王が息子のマナセをどのように育てたのかについて、マナセがなぜ悪い王になってしまったのかについて、たしかに明確に明かしてはいません。しかし、我々はヒゼキヤ王の生涯からその原因を推測してみる事ができます。

①ヒゼキヤ王は息子のマナセを間違って愛したためだと言えます。

列王記２０：１－１１によると、**ヒゼキヤ王は在位（ざいい）１４年、彼が３９歳**になった年に病名は分かりませんが、病気にかかって死にそうになりました。神様はイザヤ預言者をとおしてヒゼキヤ王が死ぬ事を予告し、死を準備させます。ところが、この時は、アッシリアが攻めてくる時であって、まだ王位を継がせる後継者もいなかったので、このまま王が死んだら、国的にも大きな混乱が生じる事は当然のことでした。それで、ヒゼキヤ王は顔を壁に向けて神様に全力で祈ります。
“ああ、主よ。どうか思い出してください。私が、まことを尽くし、全き心をもって、あなたの御前に歩み、あなたが良いとみられることを行ってきたことを。”と祈り続きながら大声で泣きました。ここで、我々が覚える事はヒゼキヤの祈りは自分の義を表そうとするのではなく、神様に徹底的に寄り頼み、最善を尽くした事を告白する事です。そのような祈りの結論は“思い出してください。”でした。
ヒゼキヤ王がこんなに祈ったのは、王としてイスラエルの信仰の復興のために改革を起こしたのに、その実を目の前にして死なないといけないことを考えた時、どんなにくやしかったでしょうか？そういうわけで、ヒゼキヤはもっと切に祈ったと思います。神様はヒゼキヤの祈りを聞き入れてくださって、彼のいのちを15年延ばしてくださる事を約束されました。**そして、神様が約束されたとおり、ヒゼキヤ王は癒され、その３年後に息子のマナセが生まれ、このマナセが自分の後を継いで王になったのです。**

ですから、ヒゼキヤの病が癒されたことと、マナセが生まれたことを関連して考えてみると一つ驚かされる事実を見出す事ができます。ヒゼキヤが年老いて生んだ息子、しかも死ななければならない状況で神様の特別な恩寵によって命が延ばされている中で与えられた息子ですので、なおさら可愛かったはずです。**一般的にはこんなに尊く与えられた息子はかわいらしさのゆえに厳格に教育をさせることができません。**ヒゼキヤ王も当然、年老いて与えられた息子でもあるので、甘やかしてしまったかもしれません。それで、ヒゼキヤは神様より息子をもっと愛してしまったゆえ、幼いころから聖書を教え、王としての資格を整えさせるための教育よりかは愛する息子の願うとおりに全部させたかも知れません。このように育ったマナセが12歳になって王になった時、信仰、分別力などあるはずがありません。ですから、当然、節制されてないまま肉体の本能に従って快楽と自分の思いのままを行って結局は滅亡の道に走ってしまったのです。

そういうわけで聖書はこのように教えます。
“若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。”（箴言２２：６）
“愚かさは子どもの心につながれている。懲らしめの杖がこれを断ち切る。”（箴言２２：１５）
愛するからこそ、幼いころから聖書通して神の前で何か正しいか、祝福される道であるか、罪の道であるか教えなければならない、正しく教えるために時には聞かなければ懲らしめのむちを持て養育させなければなりません。
こんにちは学校教育においてむちでたたくと先生や学校が通報されますが、一般公立学校での様子をみるとうつぶせになって寝ている学生の方もかなり多くいるようです。確かなのは、子どもを正しく教えるためには言う事を聞かない時には、むちを持ってても正しく教え、支える事は神様の教えであり、神様からの方法でもあります。暴力しなさい意味では決してありません。聖書をそのように誤解（ごかい）してはいけません。むちを持つべき時とどうやってすべきなのか親は覚えなければなりません。まず、親との共感と関係が出来てない場合はまずその関係を作るべきことがそれが優先でしょう。むちの後必ず子どもと会って十分な会話を通してケアーしなければ本当の意味が伝わらず、子どもたちには怒りと傷だけが残ってしまう事も親は覚えなければなりません。

愛する信仰の家族のみなさん！
今日世界どの国でも懲らしめのむちがある国は秩序があり、豊かな国になることを歴史は証拠として表しています。
たとえば、車の運転をするときスピード違反をした時、アメリカは５万円―１２万円までの高い罰金を払わなければなりません。シンガポールは犯罪者に世界で一番恐ろしい罰を与える国ですが、世界で一番犯罪のない国として認められているのではありませんか？ですから子どもたちが神様とこの世で用いられるすたらしい人として生きてほしいなら、徹底的に神の御言葉と聖書の価値観を教えなければなりません。今日ヒゼキヤ王自身はすばらしい信仰を持っていたかも知れませんが、自分の子どもに信仰の教育することに心と力をかけなかった事が将来の問題の種となってしまった教

訓を我々も覚えなければなりません。

2) ヒゼキヤが信仰の模範を見せなかったからだと言えます。

神様の特別な恵みによって１５年も命が延ばされたヒゼキヤ王はもっと神様を愛し仕えるべきでした。しかし、**第二歴代誌３２：２４－２５に“そのころ、ヒゼキヤは病気になって死にかかったが、彼が主に祈った時、主は彼に答え、しるしを与えられた。ところが、ヒゼキヤは、自分に与えられた恵みに従って報いよとせず、かえってその心を高ぶらせた。そこで、彼の上に、またユダと、エルサレムの上に御怒りが下った。”**と書かれています。

ヒゼキヤは不治の病気が癒された奇跡を体験したのにもかかわらず、時間が経つと神様の恵みに対する感激がなくなります。まるで自分にはその神の癒しと恵みを受ける資格があったからかのように高ぶりになってしまったようです。それで神様の恵みによって15年も生きる事ができますが、この15年間何をしたのか聖書には何の記録がありません。

そのうちに息子が1人生まれて育っただけなのに、それもユダの中で一番悪い王を育った事で彼の生涯は終りを占めました。**これを違った表現で言うと、ヒゼキヤ王は家の中では息子のマナセに信仰的模範とならなかったと言えます。**
もちろん宮で神様にいけにえをささげることを欠かせませんでしたが、それも形だけの生活だったので、子どもに影響を与える事ができませんでした。形だけの礼拝と信仰はこんにちも同じく子どもたちになんの影響を与える事はできない事をもう一度覚えなければなりません。信仰の継承と影響が出来ない理由の中では教会と外での他の人々の前と家の中でも信仰と姿が違うからのケースが多くあるのではありませんか。つまり、教会では牧師であり、長老や役員とか、多く奉仕をしていても家に帰って来ると、全く信仰のクリスチャンの親の姿が見えないから何の影響も及ぼす事が出来ないかも知れません。

今日のヒゼキヤ王が政治的には成功したかも知れませんが、家の中では失敗者でした。その結果、彼の息子マナセはユダの王の中で一番悪い王になりました。
愛する信仰の家族のみなさん！今日我々はどうですか？我らの子どもたちは家での親の姿を見ながら、本当は何を愛し、大切にしているのかよく知っています。今日みなさんは神様の恵みに対する感激と感謝がありますか？感謝をもって賛美し、礼拝をささげますか？神様の愛と恵みを受けた者として教会でだけではなく、家でも神を信じる者としてふさわしく神を愛し、愛の仕えを家族にも行っているのでしょうか？これはとっても大切な親としての自己点検だと思います。

第一テサロニケ５：１６－１８節に“いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。”と言われた。**ルカの福音書１７：１１－１９**によると、イエス様がサマリアとガリラヤの境に通られた時、十人のらい病患者が“イエス様、我々をあわれんで下さい。”と叫んだ時、“行って祭司にあなたがたの体を見せなさい。”と言われました。それで十人のらい病患者が祭司に行く途中で自分たちが癒された事を知って、その中のだった1人だけが戻って来てイエス様に感謝をささげました。するとイエス様は**“十人が癒されたのではないかその九人はどこにいるのか？”と言いながら感謝する人を捜しました。**なぜそうされたでしょうか？イエス様は癒した代価を求めたのでしょうか？**信仰の生活は神様の恵みに対する感謝がなければ、もしくは忘れると高慢になることを主はよく見抜いたからです。**
ヒゼキヤは自分が祈りが聞かれるほど、神様に癒されるほどの資格があると勘違いしたようです。ヒゼキヤ王も病気が癒された後、感謝する心もなく、自分が祈りをちゃんとして、自分が真実に宗教改革をしたからだと思って高慢になり、その結果後に子どもも与えられましたが、家でのふさわしい信仰の姿は見えなくなったしまいました。

第一歴代誌28:9はダビデが死ぬ前に愛する息子ソロモンに残す遺言ですが、このような信仰の遺言です。
“我が子ソロモンよ。今あなたはあなたの父の神を知りなさい。全き心と喜ばしい心持をもって神に仕えなさい。主はすべての心を探り、すべての思いの向かうところを読み取られるからである。もし、あなたが神を求めるなら、神はあなたにご自分を現される。もし、あなたが、神を離れるなら、神はあなたをとこしえまでも退けられる。”と言いながら息子に頼みました。もちろんソロモンも足りなさはありましたが、父の後を継いですばらしい王になりました。
しかし, ヒゼキヤは聖書のどこにもマナセに神様に仕えるようにと教えた記録がまったくありません。

今までヒゼキヤ王の自分の息子を誤って育てた原因を二つの面で考えて見ました。これを私たちは自分たちにも当てはめてみるのはどうかと思います。神様をまことに愛し、神から頂いた愛をもって喜んで仕えている信仰を子どもたちに模範として表しているのか。神様の御言葉のとおりに子どもたちを愛し教えているのか？**結局子どもたちの問題は親である自分たちの問題であり、自分の信仰の問題である事を認識し主の御前で認める必要があります。**

愛するみなさん。ヒゼキヤのようにならないように共に心かけましょう。マナセのような子どもが出ないように祈りましょう。そうするためにはまず親の生き方として、神様を第一に愛し、子どもたちに神様の御言葉を教え、信仰と愛の模範を見せ、代々すばらしく祝福されたクリスチャンの家庭を築き上げ、神様に栄光を返せる全クリスチャンプレイズ家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！